



学塾通信 2月号（第 158 回）

～学塾は一人ひとりが目標に向けて真摯に取り組む教室である～

2月 11 日(水)・23 日(月)は祝日開校日です。通常授業を実施します。

卒塾生が年末の帰省に合わせて教室に顔を出してくれました。近大附属高校から富山大学へ進学した生徒や大阪教育大附属中高から京都大学へ進学した生徒(元講師)です。2014 年の中學入試の合格発表の場は掲示板でした。学塾開校 2 年目の中学受験ということもあり、当時のことは鮮明に思い出せます。発表の 30 分前に学校の正門をくぐると結果を待つ小学生・保護者様・塾関係者が今か今かとそわそわしていました。定刻になると、掲示板を覆っている布がさーっと剥がされ、合格者の受験番号が発表されます。少しの沈黙のあと、喜びの声が響き抱き合う親子がいれば、言葉少なく泣きながら学校を後にする親子もいます。そのような状況の下、私は校舎の片隅で掲示板が見えるか見えないかギリギリのところに立ち、両手で目を隠し少しずつ少しずつ指を開き、指の間から掲示板を見ていました。その姿はスーツを着たおじさんが、まるでかくれんぼの鬼をしているようだったでしょう。数分後、意を決して「えいっ！」と目を開くと、そこには塾生の受験番号が輝いていました。開校して間もない学塾に通ってくれた生徒を、希望の学校に導くことができた安堵感は、言葉では言い表すことができないほどでした。

後日、他塾のブログに合格発表の様子の写真が掲載されていました。その写真の片隅にかくれんぼの鬼をしている私を見つけたときは、あまりの恥ずかしさに次からは普通に発表を見ようと心に誓いました。さて、1 月も半ばになり今年度入試も私立高校入試と公立高校入試のみになりました。連日、受験生がそれぞれの課題に向き合い、入試当日に向けて頑張っています。1 年前、中学 3 年生になるにあたり「変化をつくる」という話をしたのを覚えているでしょうか。1 年前と今の自分を比べると大きく成長していることをみんなも実感できていると思います。ここまで一足飛びに進んできたわけではありません。目の前のひとつひとつの課題に向き合いながら前進してきたのです。自分の弱さ・強さ、理想と現実のギャップ、他者への称賛と妬みなど…、心で感じてきたすべてのことがみんなをひとつ大人にしました。

合格通知をいただくことで高校受験は終了ですが、それは新たなスタートにすぎません。近い将来自分の足で世の中を渡っていくことができるよう、専門分野(何で社会貢献していくのか)を探しながら心身ともに強く・優しく・たくましく成長して欲しいと願っています。

毎日のように顔を合わせているみんなが学塾を巣立つ日も
近くなり、一人ひとりとの関わりを思い出し感慨深い気持ちに
なることがあります。

笑顔で今年度入試を終えることができるよう
最後まで真剣勝負でやり切りましょう。



○保護者面談について(随時受け付けています。)

面談を希望される方はアプリから連絡をお願いします。日程調整をします。

○入試情報等について

各学校から届いた案内や入試に関する情報は、学塾の X(Twitter)にて配信しています。

○教室への連絡について

2月末をもってメールでのやり取りは終了となり、すべてアプリでのやり取りとさせていただきます。

ログイン ID が見当たらない方は再度お渡しします。教室まで連絡をお願いします。

学塾通信の紙での配布も今月で終了します。

○2025 年度学塾カレンダーについて(同封しています。)

授業回数はこれまで同様年間で 45 回です。テスト前に休校にならぬよう調整を行う関係上、月によって授業回数に変動はありますが、年間の授業回数は同じになるように調整しています。

45 回の授業料を 12 ヶ月で分割しているとお考えください。

学塾ホームページの「お知らせ」にもカレンダーを添付しています。

○新年度授業料について

新年度授業料について検討をした結果、次年度も変更なしで進めることにしました。

○2026 年度費用一覧について

中学受験コースは 2 月(1 月末の引落し)、それ以外のコースは 3 月(2 月末の引落し)から新学年の授業料となります。よろしくお願いします。

○新年度教材について

3 月の新年度スタートに向けて教材を発注します。ご購入いただく教材については、1 月末に確認していただけるように準備をしていきます。高校受験生は学塾での受講科目に関わらず 5 教科の問題集と英単語の問題集のご購入をお願い致します。(教材費は 2 月末の授業料と合わせて請求させていただきます。)

テスト前学習会の教材は 3 月の新年度に合わせての購入ではなく、4 月末に合わせて準備します。

☆小学生☆

受験をしない小学生は学校で学んだことを反復する機会が少なく、一度学んだ内容を忘れてしまうことがあります。そういったことから前学年までに学んだことが定着せず忘れてしまいがちです。学んだ知識を定着させるためにも、今年の1月から3月の間は現学年で学んだことを復習する時間を取りたいです。これまで学校の宿題以外にあまり勉強の時間をとてこなかった人は、解きやすく比較的〇がつきやすいレベルの問題集を選びましょう。

国語の長文読解を練習するときには、教科書に即した問題集ではなく学校の授業で扱っていない初見の文章が掲載されているものを選んで下さい。問題を解いて〇×だけをつけるのではなく長文を丁寧に読み直すことが大切です。時間を気にせず一言一句声に出して読みながら復習をして下さい。

○新小学4年生について

3年生までは「スタンダードコース」「G-kidsコース」と分かれており、1コマで2教科の授業をしてきました。4年生からは75分で1科目となります。中学受験コース4年生の方は算国(理)+1コマ自習の時間を持つようにして欲しいです。

これまでとは授業の進度、宿題の量も変わります。慣れるまでは大変に感じるかもしれません、まずは1ヶ月頑張ってみましょう。

○新中学1年生について

小学校と中学校の違いについて簡単に触れておきます。(公立中学の場合)中学校の先生は小学校の先生ほど宿題を細かく見てくれません。学期ごとの懇談時に提出物の状況や授業態度・宿題の状況をまとめて聞くことになります。普段は宿題の量もそれほど多くなく、「家で宿題をしている様子は無いがいつ宿題に取り組んでいるのだろう。」というような声をお聞きすることもあります。

普段は多くないのですが、定期テスト後には各教科のワークを提出するという課題があり、これに戸惑う人も多いです。学校のワークを終わらせることができないため、テスト前もテスト勉強よりワークの答えを写すことで精一杯になり、テスト勉強を十分にできない、という状況に陥ってしまうのです。

逆に、普段から計画的に学校のワークに取り組めている人は余裕をもってテスト対策ができ、結果として高得点を取ることができます。

学塾のテスト対策では2週間前の土曜日は学校のワークに取り組む日としています。学校のワークに取り組むきっかけとして、この対策講座に参加していただくのも良いと思います。中間テスト前に新中学1年生を集めて定期テストの勉強についてレクチャーする時間を設けますので、保護者様からも参加するようお声掛けいただけすると幸いです。

☆中学受験生☆

○新小学 6 年生

自主学習の内容をふたつに分けましょう。

ひとつは漢字や理科・社会の語句の暗記、算数の計算問題など毎日コツコツと積み重ねていくものです。

もうひとつは算数の特殊算や理科の計算など解法を理解する必要があるものです。

コツコツ積み重ねるものは学塾の自習室でなくても、自宅で朝や夜の時間を使って取り組むことができます。一方解法を理解する取り組みは自分では解決できない問題もあるかもしれません。もし問題を間違えてもおろそかにせず、テキストの問題番号にチェックを入れたり、付箋を貼るなどして質問にきてください。授業ももちろん大切ですが、それ以上に大切なことは自主学習の時間です。

自主学習の質が取り組みの成果を分けます。

「自主学習が一番大事」「自主学習は一番力がつくとき」

○新小学 5 年生

模試が始まります。学校のテストと模試の受け方は違います。

下記の 3 つの段階を踏むことが模試を有効に活用するための方法です。

- 1 事前準備。テスト範囲を確認し模擬試験までの期間に、これまで学習してきたことの復習をしましょう。
- 2 模試を受験。できる問題を確実に正解できるようにしましょう。特に事前準備で確認したことが出題されたのであれば、そこは得点したいところです。
- 3 復習。模擬試験で出題される問題は重要なものばかりです。テスト結果で一喜一憂することなく、しっかりと復習をしましょう。

模試は「教材」です。この 3 段階を経ることにより自分の実力の確認と今後の目標設定ができます。参考にしてください。

5 年生は週 4 コマ + 自習が必須となります。(3 科目受験の場合。2 科目受験者は週 3 コマ + 自習です。) この 1 年でしっかりと土台を作り、6 年生へつなげていきましょう。

☆中学1・2年生☆

○中学1年生

3月からミニテストを開始します。対象は5教科の定期テストが400点未満の人です。

ミニテストを始めて5年が経ちます。最初は「10分テスト」という名称で始めました。初年度の生徒たちからは大不評でした。「10分で終わらん！！」「他の塾へ行くぞ」など文句の嵐でした。

学力的に厳しい学年だったことに加えて、学習指導要領が変わったことにより、通常授業だけでは成績を上げるための演習量を確保することが難しいと判断したため、実施を決めたのが「10分テスト」の始まりでした。(それまでも月に1回生徒を集めて補習をしていました。しかし月1回では箸にも棒にも掛からぬ状況でした。)

現在の3年生・2年生は、毎週きちんと提出することができており成績も上がりミニテストを卒業できている人と、提出しているが自力で解いていない人やそもそも何ヶ月も提出できていない人がいます。全員がきっちりできているわけではありません。

ですが、きっちり取り組んでいる人は毎週復習をすることができ、その都度理解度も上がっています。私の理想は全員が400点を超え、ミニテストを実施しなくても良いという状況を作ることです。そうなれば最高です。15期生のみなさんにはそれを目指して欲しいです。

○令和10年度入試について

現在の中学生から入試制度に変更があります。

大阪府のホームページに掲載されている資料を学塾のXに転載しています。(2025年11月27日です。)ご確認をお願いします。

○中学2年生

今月末には中学生対象の塾長講座が始まります。この講座は14期生全員が希望をする進路に進むために必要な時間です。受験直前の13期生は、それぞれが受験をする学校の入試問題を解きながら対策を進めています。通常授業や塾長講座で実施したことが入試問題に出題されていたり、入試問題を解く上で基礎知識になっていることを実感しているようです。14期生のみなさんには、毎月入試問題を解く上で大切なことを伝えていきます。その場その場できちんと身につけることを意識して頑張ってください。

○次年度からの受講科目について(先月と同じ内容です。)

高校受験生は受験指導の関係上、英数は必須受講となります。

3月の新年度開講から授業をスタートできるよう、習いごと等の調整をお願いします。

現在、数学もしくは英語のみの単科受講の方は、3月より英数での受講をお願いします。

○第1回 塾長講座について(文書配布済)

今年度同様、月1回を目安に塾長講座を実施します。

第1回 2026年1月24日(土) 17時45分～19時00分

この日は受験学年に向けてのオリエンテーションです。

今月のテーマは「変化をつくること」です。

全員参加をお願いします。参加できない場合は申込書に添付している欠席届を提出してください。

○新中学3年生(高校受験生) 保護者説明会(申込書配布済)

高校受験に向けて1年間の方針をお伝えします。

2月11日(水・祝) 13時30分～14時30分

欠席の方には後日資料をお渡し致します。

○特進コース

中間テスト・期末テストの結果を参考に、該当する方には特進コースの受講証を同封しています。
希望される方には内容についてご説明します。

☆高校受験生☆

2月2週には私立高校の合格発表が終わり、私立専願の人は進学先が決まります。受験勉強が終わり嬉しい気持ちはわかります。しかし、公立高校を受験する人は3月まで受験があること、併願で私立高校に進学する生徒は専願よりも高い合格基準で進学してくることを踏まえた行動をして欲しいと思います。全員の進学先が決まったときが13期生の受験の終了です。全員が決まるまで一緒に頑張りましょう。

○入試直前特訓について

1月24日(土) 13時30分開始です。解説授業回です。

○高校受験生 入試出陣式について

入試当日の注意点のお知らせや講師陣からのアドバイスをする学塾の恒例行事です。

2月7日(土) 直前特訓終了後

直前特訓受講者は、直前特訓終了後に引き続き出陣式を行います。終了は 20 時 30 分頃になります。

○ 受験後のアンケートについて(アンケートは 1 月 10 日に配布済です。)

次年度受け入れられる新入塾生の人数を把握するために、受験後のアンケートを実施します。
現時点での希望をお聞かせください。

高等部へ継続を希望しない方の授業停止の申し出期限は以下の通りです。

3月末退塾希望 2月7日(土)

☆大学受験生☆

卒塾生が増え、彼らから高校進学後の様子を聞いたり、高校卒業後の進路を集計したりしていると主体的に学ぶということが大切だと改めて感じています。

将来に対するビジョンがある人ほど、主体的に学んでいると思います。中学受験、高校受験を経験しているとどうしても「学ぶ」＝「受験勉強」をイメージしてしまいがちです。しかし、本来学びとはそうでないはずです。自らの興味を追及する過程に「学び」があるのです。

学校で学んでいること、学塾で学んでいることを基礎にそこから派生をして、どんどん知識を追求してほしいです。そうすることで、高校卒業後の進路も見えてくることでしょう。

昔と違い、大企業に勤めたから一生安泰という時代ではありません。自分の強みを客観的に把握し、それを生かせる環境を求めていくべきです。

自らの強みを育て、それを客観的に把握する時間が高校・大学の 7 年間だと私は考えています。

高校生のみなさん、貪欲に学んでいきましょう。

自分の所属する学校や部活内だけでなく、広い視野を持つためにどんどん外に出ていきましょう。

2026 年度 新年度 塾生募集について

【高校生】	募集枠無し
【高校受験 新中 3】	若干名
【高校受験 新中 2】	募集無し(キャンセル待ち 2 名)
【高校受験 新中 1】	約 10 名
【中学受験 新小 6】	若干名
【中学受験 新小 5】	若干名
【非受験 小学生】	若干名